

平成 25 年度特定非営利活動に係る事業報告書

特定非営利活動法人はぁもにい

1 事業実施概要及び成果

全体

本年度も当事者やその家族が、誤解や偏見を受けることなく、ありのままを認められ、受け入れられ、理解される環境（人・場所）を地域コミュニティの中に確立・構築していくために必要な支援（サービスの提供）及び普及・啓発活動を継続して行った。

Ⅰ 障害福祉サービス事業

①放課後等デイサービス事業

利用児童の個々の特性を理解し、成人した後も安定した生活を送れるよう、「生活の質を高めるためのコミュニケーションスキルやソーシャルスキルアップ、余暇活動の支援（趣味の獲得）及び社会活動を通して地域コミュニティへの参加」を取組課題とし、利用児童一人ひとりとしっかり向き合える体制を整え、サービス提供内容の充実を図った。

また保護者・学校・保健センター・医療機関等との連携を深め、利用児童に対してのサポート体制を完成させていくことに努めるとともに、他の市民活動団体や自治会等とのつながりを深め、地域コミュニティにおける居場所作りを進めていった。

中高生が中心となった利用児童たちは、心身ともにゆっくりだが着実に成長し、目標としている「自分の気持ちや思い、考えを伝える力」も、確実に育まれている。

②障害者就労継続支援事業（A 型）

A 型雇用有 3 名は時給 780 円、雇用無 2 名は日当 2,000 円の支払いを実現させた。

A 型雇用有は Community Café b（ふらっと）において、厨房補助・接客補助・事務補助（PC 作業含む）を主な作業トレーニングとして行った。A 型雇用無は就労支援プロジェクト「お菓子工房 はぁもにい」主力商品の製造（梱包ラッピング含む）に取り組むが、つながる街づくりプロジェクト「Community Café b（ふらっと）」への搬送、通信販売の受付発送、バザーやイベント等でのブース販売も作業トレーニングとして行った。

日中活動（働く）場として、充実した時間が過ごせるよう利用者個々の特性に合わせたサービスプラン（仕事等）を作成しサービス提供に努める中、疲労度やストレス度が高くなりやすく、そのために作業の継続等が厳しい彼らに対し、定期的なモニタリングやカウンセリング、ストレスサインを見逃さないなどきめ細かい対応に努め、全員が 4 月当初より、労働日数や時間を増やしていくことができた。単に日数等を増やせただけでなく、「仕事が楽しい」「職場が楽しい」「継続して利用していきたい」等やりがいや働きがい、好ましい居場所と感じてくれている声が彼らから多く上がってきている。

II つながる街づくりプロジェクト「地域の方達と障碍のある方達との架け橋になりたい」 Community Café ｂ（ふらっと）

「場を通してはあもにいの思いを伝える」「働く障碍者の工賃アップのビジネスモデルを作る」を目標に、地域とはあもにいをつなげるタッチポイントして、顧客ニーズに合わせたサービスの提供に努めた。

1階カフェでは地域の生産者達と連携し、地元食材を中心にしたランチ提供や、同じく地元食材を使用したお菓子工房はあもにい商品のイートインやテイクアウトサービス提供し好評を頂き、単に売上を上げるだけでなく、地域とのつながりをさらに深めていくことができた。

「カウンセリングカフェ」としての認識も広がり、ニーズも非常に増加してきたことから、今年度はさらにその機能を特化させ、皆様からのニーズに応えていった。

具体的にはNPO 法人再決断カウンセリングジャパン会員カウンセラーとの連携により、1階カフェでのカウンセラーによるお話会（2：00PM~5:00PM）の実施、2階個別カウンセリングルームでのピアカウンセリング及び個別カウンセリングの実施（予約制）、2階セミナールームでのカウンセリング講座の実施（通年）を開催した。

III 就労支援プロジェクト「誰もが幸せを感じる HAPPY スイーツを提供したい」お菓子工房はあもにい

「商品を通してはあもにいの思いを伝える」「働く障碍者の工賃アップを実現させる」を目標に今年度も活動をした。

3時パティシエ河野孝志氏とのコラボレーション「～おいしくつながる優しい気持ち～はあもにいスイーツギフト会員」（年会費 12000 円）の今年度会員数は 50 人。会員になる意義をしっかりとご理解頂き、強力なサポーターとなって頂くことができた。

工房のブランディングをはあもにい総合プロデューサー（株）ZNEM 三好和彦氏に依頼、パッケージやフライヤーを一新、b shop 販売、出張販売・イベント販売、SNS や WEB での発信等を通し、商品の良さが認知されるようになり、順調に売り上げを伸ばすことが出来た。今年 2 月には、ちば食の逸品発掘 2014 においても「はにいシロップ『からずんしょう』」であじわうプリンセスぷりんが銀賞を受賞。次年度から本格始動をはじめの自分発見プロジェクトはあもにい養蜂部の「はにいシロップ」も食の 3 重丸セクション第 5 期セクション商品に選ばれ、その活動も注目され、読売新聞、千葉日報、hanako、ぐるっと千葉、コトノネ等メディアでも多数取り上げられ、商品の知名度が上がり、新規顧客を獲得することができた。3 月には千葉県農商工連携事業助成により、フーデックス 2014 にも出展。次年度につながる商談や案件を複数持つことができた。

IV 自分発見プロジェクト「はあもにい養蜂部」

就労継続支援はあもにい（就労継続支援事業 A 型）の新たな作業トレーニングの場として次年度より本格始動するため、準備企画を進めていった。

V 相談支援事業

1 億総うつと呼ばれる現在、当事者や家族だけでなく、地域住民の方たちなど、悩みを抱え、話を聞いてくれる人や場を求める人は増える一方である。そんな中「街の保健室」的

役割を Community Café b（ふらっと）が果たし、「こういう場所があってよかった。救われた」という声が年間を通し、本当によく聞こえてきた。

VI普及・啓発活動

毎日の活動、SNS や WEB を通しての発信、講演会の引受け等を通して、本年度も継続して行い、地域だけでなく全国から取り組みを紹介してほしい、教えてほしいという声がたくさん寄せられた。地域に一つでも多くこのような場ができ、支援をする彼らの居場所が増えるよう、可能な協力をおこなった。